

かしこく
やさしく
たくましく

宝島だより

<http://www.toshima-sc.net/takara/>

十島村立宝島学園
児童・生徒数 26名
学校だより6月号
令和6年6月20日発行

大切なお子さまを確かにお預かりいたします

校長 西田 裕之

GWがそろそろ終わるといふとき、出張で鹿児島に上がるために、早朝の港に向かった。そこには、子どもたちの姿があった。長期休みを利用して、ご家族が宝島に来てくださっていたのだ。数日間のファミリーの時間を終えて、今から戻るころだった。

本年度から開設された宝島寮、その他の山海留学生、全部で11名。近い順に鹿児島市、福岡、静岡、東京、神奈川、宮城。思えば遠くへ来たもんだ、なんてフレーズは、令和の子どもたちには分からない。なんだか毎日当たり前のように接しているが、生まれてたった10年そこらで親元を離れて、本当によく頑張っていると思う。

実は、新規採用3年目の時に担任した5年生が、6年生になるときに小宝島に山海留学した。洸（仮名）という子だった。今のとしま2とは違う船だったと思う。夜中の11時に見送りに行った。南埠頭に行ったと思うのだが、記憶が定かでない。ただ、夜の港に一際輝いている船だったことは覚えている。拡大印刷機で横断幕を作った。1か月後に入籍する予定だった妻がたまたま鹿児島に来ていたので、一緒に見送った。「ひかるー！がんばれー！！」船の見送りはやはり胸にじんときる。汽笛が鳴って、どんどん小さくなる船。私の目の前で、洸のお母さんが「この子だけは出したくなかった」と号泣していた。その時の私には、その気持ちは分からなかった。でも今は、あの時のお母さんの気持ちに痛いほど共感できる。ちなみにこの時の光景は、私と同じ神奈川県出身の妻にとって本当に衝撃だったようで、今でもたまに話題に上がる。そんな妻と今、宝島にいるのが不思議だ。

話は戻って前籠漁港。見送る子どもたちの一人に、「楽しかったね」と声をかけた。いや、かけてしまった。普段から元気澁刺。何か問われれば必ず手を挙げる、そんな子だが、その時は下を向いていた。間もなく船に乗り込むというときに、お母さんがその子を抱きしめた。その子の顔がお母さんの胸にうずまった。私は、不用意に声をかけた鈍感な自分が嫌になった。普段はそんな姿は見せないが、みんなそれぞれ寂しさを抱え、それを乗り越えているのだ。

この光景を見て、私は、大切な大切な子どもたちを、責任もってお預かりするという気持ちを、あらためて、強くもつことだった。

学校ではいろいろなことが起こります。トラブルもチャンスと捉えて、子どもたちの成長に変えていく、それが学校の使命だと思っております。留学生だけでなく、26名の全ての大切なお子さまを、様々な喜怒哀楽を通して、伸ばしていきたいと思っております。皆様のご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

防災について考えました

5月21日に地震を想定した避難訓練を実施しました。地震の発生アラートに合わせ机の下にもぐり、揺れが収まるとグラウンドに避難、津波警報の発令で、更に高い所へと避難する、という流れの訓練を行いました。全員が、非常時を想定し、真剣に行うことができました。

6月6日には、村の防災教室ということで、役場の危機管理室の方と一緒にロボットのペッパーくんが来てくれ、身振りを交えながら、大雨への備えなどについて説明をしてくれました。梅雨のこの時期は雨の日が多く、がけ崩れなどにも注意が必要です。みんな自分のこととして考えることができた時間でした。



様々な活動を通して成長、一歩ずつ



授業で出てきた魚についての疑問を、講師の方に聞いて、教えてもらいました



講師依頼の電話は自分たちでしました



魚をさばく様子を見学させていただきました。「百聞は一見に如かず」でした。



思春期教育、命の奇跡を感じました



後期交流学习、事後学習も含め大きな学びとなりました



<お知らせ>6月22日土曜日は14:30より、学校体育館にてニュースポーツ・バグジーを実施します。講師の方も来島され実際に活動します。お気軽に御参加ください。

7月の主な行事予定

- 2日(火) 水泳大会(大籠海水浴場)
- 5日(金) 後期課程期末テスト(8日まで)
- 9日(火) 10日(水) 上級学校説明会(参観可能)
- 12日(金) 島内職場体験
- 13日(土) トカラ集会
- 15日(月) 海の日
- 19日(金) 1学期終業式
- 児童生徒夏休み 20日(土)~9月1日(日)